社長メッセージ

長期的なVISION・PURPOSEは ぶれることなく、大胆な成長へ

2025年の現在、当社は中期経営計画「SPEED 25/30」フェーズ1の最終年度を迎えています。私が社長に就任して以来9年、コロナ禍などの制約を乗り越えたいま、改めて2030年に向けたビジョンの具体化に本腰を入れる段階にあると考えています。

現在進行中の中期経営計画は、2050年の「国際秩序の変化」「産業構造の変化」「社会構造の変化」といった社会のメガトレンドを想定して策定しました。そこからバックキャストする形で「2030年度のありたい姿」と「2025年度までの目指す姿」を設定しました。2026年度からのフェーズ2では「2030年度のありたい姿」に向けて、より一層従業員も巻き込んで大きく成長するための挑戦をしていきたいと考えています。今はそうした挑戦に向けた従業員の意識醸成を着々と行っているところです。

フェーズ1の間、事業環境の変化はありましたが、PURPOSEやVISIONに掲げた化学技術の革新による高品質の製品・サービスの提供や、環境調和型の持続可能な社会の実現に貢献するという理念はぶれない軸として保持していきます。一方で、急速に変化する事業環境や社会的要請を踏まえ、中計における戦略や取り組みについては、柔軟に変化へ対応していく必要があると強く感じています。そのため、フェーズ2では、既存事業の延長線にとどまることなく、新たな可能性へ挑戦することで、大胆な成長を遂げることを目指します。将来に向けた大きな構想を描きつつ、社員全員が同じ目標に向かって進むための道筋を示し、具体的な成果へと導いていくのが経営トップとしての私の役目です。

中期経営計画→P.22

フェーズ1の反省から今後を見据える

フェーズ1では2021年度から2024年度にかけて、主に韓国への投資を行い、有機EL材料やコロナ禍でのPCR診断キット材料などの高付加価値製品の業績が伸長しました。韓国での事業は半導体関連材料などで新たな顧客の獲得にもつながっており、現在、機能性色素セグメントは韓国での売上が大半を占めます。こうした投資も効を奏し、当初掲げた2025年度の経営目標である売上高500億円は達成の見込みです。一方で、課題も明確になっています。営業利益率は当初目標の15%に対し、実績は10%程度にとどまる見込みです。その要因としては、地政学リスクやインフレによるコスト上昇が大きく影響しており、円安の進行や原材料価格の高騰、人件費の増加といった外部環境の変化が収益の圧迫要因となっています。価格転嫁は一定の効果を上げているものの、一部の高付加価値製品では想定以上に競争が激化しており、当初の見込みよりも利益率が低下しています。さらに、樹脂材料セグメントの2期連続赤字など、一部の事業では中国市場における市況下落や構造的要因の影響を受けていて、それらマイナス要因への対応も、引き続き求められています。

中期経営計画→P.22　保土谷化学グループのグローバル展開→P.35

フェーズ2は転換点。 国内に目を向け投資拡大

中期経営計画フェーズ2では、「2030年度のありたい姿」に向け、国内への成長投資に注力し、利益拡大を図ります。この方針は、地政学リスクを軽減するだけでなく、国内市場にも新たな成長の可能性が見込まれるためです。

中でも重要視しているのが、半導体の回路パターン形成に欠かせない半導体レジスト材料です。この半導体レジスト材料は日本の化学メーカーが世界シェアの8割ほどを占めていますが、最新の半導体は、極微細な回路を形成するために、レジスト材料に関して極めて高純度の精製を求められています。当社はそこにチャンスを見出し、韓国で培った「超高純度精製技術」を日本市場で展開していくための投資を予定しています。この分野で我々は後発組ではありますが、このようなニッチなニーズをしっかり取り込み、当社の技術で課題をクリアできれば、今後も確実な伸びが見込める半導体業界で、新たな市場を開拓できると確信しています。

また、次世代医薬品である「核酸医薬分野」にも注力します。韓国のグループ会社であるSFCが診断用オリゴ製品の開発で培った技術を基盤に、日本市場での展開を進める予定です。創薬メーカーが多い日本で顧客との橋渡しを行い、この分野での成長を目指します。

さらに、事業強化に向けた重要な施策として、2025年2月に「アルミ着色用染料の国内製造設備増強」を発表しました。この染料は、環境配慮型メタルフリーのカラーアルマイト染料で、戦略的パートナーと共同開発した製品です。今後、需要の増加が予想されますので、国内での生産能力を拡大することで競争力を高めます。

そして、引き続き業績が好調な既存の事業にも注力していきます。アグロサイエンスセグメントで私が特に注目しているのが、作物の生育を刺激するとされる「バイオスティミュラント」です。主として過酸化水素の誘導体である酸素供給剤を用いて、その効果についてデータを取りながら開発を進めており、今後は設備投資をして生産を拡大するフェーズに移りたいと考えています。また、別の誘導体である過酢酸の殺菌剤としての展開も推進しています。

これらの取り組みを通じ、積極的にイノベーションを加速し、保土谷化学の存在感と技術力を市場にアピールしていきたいと考えています。

研究開発／知的財産戦略→P.31

持続的成長に向けて思い切った施策も

超高純度精製技術やバイオ関連技術など、韓国の関連企業で確立した強みを日本国内でさらに発展させていくためには、大胆な設備投資が必要です。この投資には多額の資金を要しますが、私は経営トップとして責任を持ち、トップダウンで推進する覚悟です。また、その実働部隊は当社初の試みとして、社内公募で幅広い人材を集め、プロジェクトを立ち上げることを検討しています。この取り組みにより、やる気のある人材の多様な発想を取り込み、プロジェクトを成功に導きたいと考えています。

現在、当社は実質的に無借金経営を続けていますが、今後は成長投資を加速させるため、一定のレバレッジを利かせて、大きなリターンを獲得する戦略を採ります。金融機関からの借入、産学官連携による補助金や助成金の活用など、あらゆる資金調達手段を積極的に追求し、責任を持って必要な資金を確保していきます。

また、投資においてはROIC（投下資本利益率）の視点を重視しています。単に投資を抑えてROICを「見かけ上」改善するのではなく、積極的に投資を行いながら、分子である利益を力強く引き上げることで、真の成長を実現します。

さらに、必要とあれば果敢にM&Aにも挑戦します。現時点では既存事業の切り離しは想定していませんが、将来的には事業環境の変化に応じて、大規模な事業ポートフォリオの入れ替えを視野に入れています。これにより、変化する市場環境の中で、持続可能な成長を確保していきます。

財務戦略→P.25

イノベーションを支える人的資本経営と組織改革

フェーズ2の策定にあたり、私は、若手従業員が10年後、20年後の保土谷化学をどうしていきたいのか、自由に夢を語り合える場を設けたいと考えています。ただ夢を語るだけではなく、それをどう実現するか、どのように「化学で夢のお手伝い」ができるのかを経営的視点で模索することで、彼ら・彼女らにとっても貴重な学びの場となるでしょう。

事業を拡大するためには、これまで以上にイノベーションを支える人材が重要になります。国内での人材確保がますます難しくなる中、当社グループでは社員のエンゲージメントを高めるための努力をしています。特に、優秀でやる気のある人材の確保のため、エンゲージメントの構成要素の中でも「心理的安全性」「ビジョンへの共感」「成長の機会」「評価と報酬」の4つのバランスを重視し、取り組みを進めています。

外部からの人材の採用も重要です。優秀な学生を採用するために初任給の引き上げはもちろんのこと、奨学金返済に関する支援制度も検討していきます。キャリア採用に加えて、一度当社を離れた社員の再採用（アルムナイ採用）などはすでに実績があります。

また、働きやすい就労環境の整備や女性の管理職比率向上はもちろんのこと、積極的な若手の登用も進め、仕事にやりがいを感じてもらえるよう努めます。さらに、報酬制度の見直しにも着手しています。従来の年功序列的な運用から脱却し、キャリア採用の場合は、当社グループの給与体系から切り離して年俸制で雇用するなど、柔軟な対応を行います。さらに、「職能給」から「ハイブリッドのジョブ型」、つまりジョブ型としてポスト給をプラスする報酬体系を検討しています。管理職に対してポスト給を設定し、役割や責任に応じた処遇を明確化するとともに、部下を持たないスペシャリストについては、専門性の度合いに応じた処遇が可能となるよう設計しています。

加えて、従業員に対する株式報酬制度（J-ESOP）の対象者を、全従業員に拡大することも予定しています。これにより従業員に株主としての意識を持ってもらい、社内が一丸となって業績や企業価値の向上を目指していけると考えます。

一方、経営層には360度評価を導入し、定性評価を行っています。その結果を活用して適材適所に人材を配置することで、円滑で実効性の高い経営を実現しています。

これら全ての取り組みを通じて、役職員一人ひとりがやりがいを持ち、保土谷化学を次のステージへと導く原動力となることを目指します。

人材戦略→P.29　コーポレート・ガバナンス→P.51

環境に優しいモノづくりで持続可能な社会の実現に貢献

当社は化学メーカーとして、VISIONの中に「環境に優しいモノづくり」を掲げています。我々は成長性や利益率だけでなくサステナビリティも追求し、持続可能社会に貢献する企業でありたいと考えているからです。

脱炭素化の取り組みで、私が特に注目しているのが水素です。当社の基礎化学品セグメントの中には過酸化水素およびその誘導品の製造等の出発点となる水素関連の事業があるため、水素社会の実現にも積極的に貢献していきたいと考えています。

具体例として、当社の郡山工場敷地内に水素ステーションの設置を構想しています。この取り組みは、福島県の掲げる水素社会実現の目標を支援するとともに、地域の脱炭素化や産業の発展に寄与するものです。現時点では採算面での課題もありますが、行政や需要家と連携し、持続可能なビジネスモデルを構築することで、将来的な成長と地域への貢献を両立させたいと考えています。

また、環境対応においては、現実的かつ着実な方法での削減努力を重ねています。製造プロセスの効率化や環境負荷の低減に向けた技術革新を進め、社会課題の解決に貢献することを使命としています。こうした一つひとつの取り組みが、最終的には企業としての信頼と持続可能な社会の実現につながると信じています。

保土谷化学グループのサステナビリティ→P.41

化学の力で社会課題を解決し、ステークホルダーと高みを目指す

当社では株主の皆様への利益還元を重視し、4期連続の増配を達成し2025年度も増配を予想しています。しかし、現状ではPBRは1倍以下で推移しており、企業価値の向上は喫緊の課題です。今後も増配を続ける方針ですが、創出した利益は適切なキャピタルアロケーションを通じて設備投資に積極的に充てることで、持続的な成長を追求していきます。また同時に、株主としての意識を共有できるよう、先に触れました従業員向け株式報酬制度拡大も

検討することで、全社一丸となって企業価値の向上に力を入れていきます。

私は経営を、登山ではなく「永遠に続く上り坂」に例えています。登山には頂上という到達点がありますが、経営にはゴールはなく、常に新たな高みを目指し続けるものです。私の役割は、従業員に具体的な目標と道筋を示し、やる気を引き出すことだと信じています。そして、従業員一人ひとりが自分の業務に誇りを持ち、企業価値の向上という「上り坂」をともに歩んでいける環境をつくりたいと考えています。最終的には、従業員全員が「保土谷化学で働いてきてよかった」と思える会社を実現することが私の目標です。

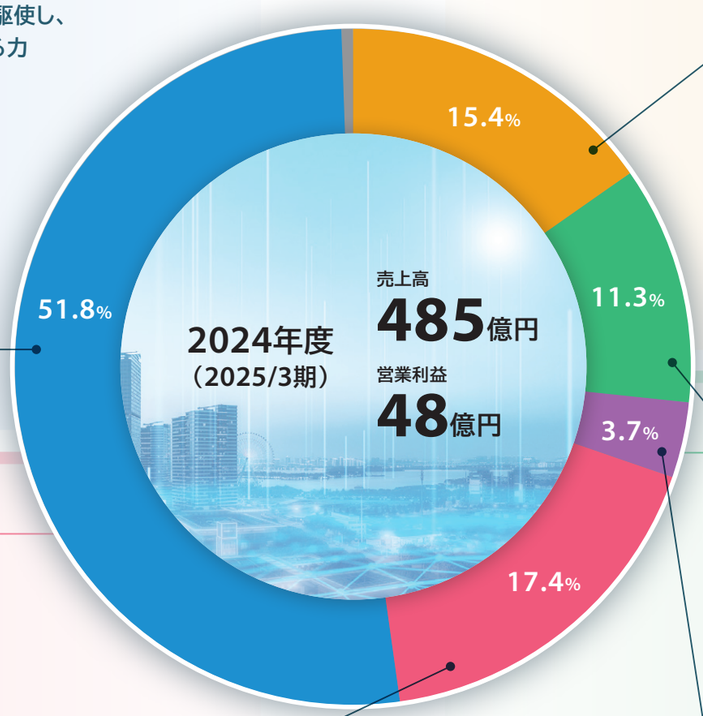
そして株主様・投資家様、お客様・お取引先様、地域・社会の皆様、従業員はもちろんのこと、これから社会に出る学生の皆さんも重要なステークホルダーです。当社は、これら全ての皆様にとって「社会になくてはならない企業」であり続けるため、事業を通じて価値創造に努めてまいります。

保土谷化学グループは、これからの100年も、化学技術を通じて「環境調和型の生活文化の創造」に貢献していきます。私たちのVISIONである「環境に優しいモノづくりを通じて、持続可能な社会の実現に貢献する」という軸は決して揺らぐことはありません。そして、「化学で夢のお手伝い」をする企業として、これからも挑戦を続け、未来を切り拓いていきます。ステークホルダーの皆様には引き続き当社グループへの変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

At a Glance

保土谷化学グループを支える「5つの事業セグメント」

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



機能性色素セグメント

強み　保土谷化学のDNAである「有機合成技術」等を駆使し、グローバルな顧客ニーズと環境対応を具現化する力

有機EL・先端材料事業
- 発光材料、輸送材料、表面保護材料
- バイオ材料（オリゴ核酸用）
- コピートナー用材料
- カラーフィルター用染料
- 半導体用材料（レジスト材料）

色素材料事業
- アルミ着色用染料
- 文具用染料
- カラートリートメント用染料
- 天然色素（食用・工業用）

売上高　**251**億円

営業利益　**38**億円（営業利益率 15.3%）

▶ P.36

機能性樹脂セグメント

強み　「ホスゲン化技術」等を駆使し、環境対応も可能なスペシャリティ品をグローバルに展開できる力

機能化学品事業
- ウレタン原料（PTG、BIO-PTG、PTG-SOFTENA等）
- ホスゲン誘導体（医薬・樹脂・電子材料用中間体）
- 接着剤
- 剥離剤

建築材料事業
- 土木・建築用材料（ウレタン系）
- 防水・止水工事

売上高　**84**億円

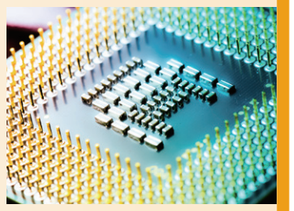
営業利益　**-0.5**億円（営業利益率 －%）

▶ P.37

基礎化学品セグメント

売上高　**75**億円

営業利益　**4**億円（営業利益率 5.5%）



強み　長年培った過酸化水素の「製造技術」を基に、衣食住すべてのステージでの新規用途へ展開する発想力

パーオキサイド事業
- 過酸化水素
- 過炭酸ナトリウム
- 過酢酸（除菌用、食添用）
- 工業薬品

▶ P.38

アグロサイエンスセグメント

売上高　**55**億円

営業利益　**3**億円（営業利益率 5.5%）

強み　「製剤化技術」を多様な生活シーンに役立つ魅力ある製品として実現する開発力

農薬・農業資材事業
- 除草剤
- 殺虫剤
- 殺菌剤
- 農業資材（酸素供給剤）

▶ P.39

物流関連セグメント

売上高　**17**億円

営業利益　**3**億円（営業利益率 19.7%）

強み　化学メーカーグループとしての危険物・化学品の「取り扱いノウハウ」を活かし、安心・安全を運ぶ力

物流関連事業
- 倉庫業（危険物/一般品）横浜営業所、郡山営業所、南陽営業所
- 貨物利用運送取扱業
- ISOタンクコンテナ保管事業

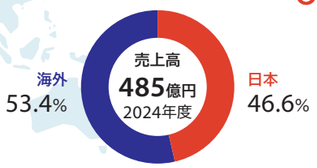
▶ P.40

※その他の売上構成比は0.4%

グローバルネットワーク（2025年7月1日時点）

海外　5カ国・地域
- HODOGAYA CHEMICAL (U.S.A.), INC.
- SFC CO., LTD.
- HODOGAYA CHEMICAL KOREA CO., LTD.
- 保土谷（上海）貿易有限公司
- HODOGAYA CHEMICAL EUROPE GmbH
- 台北駐在事務所

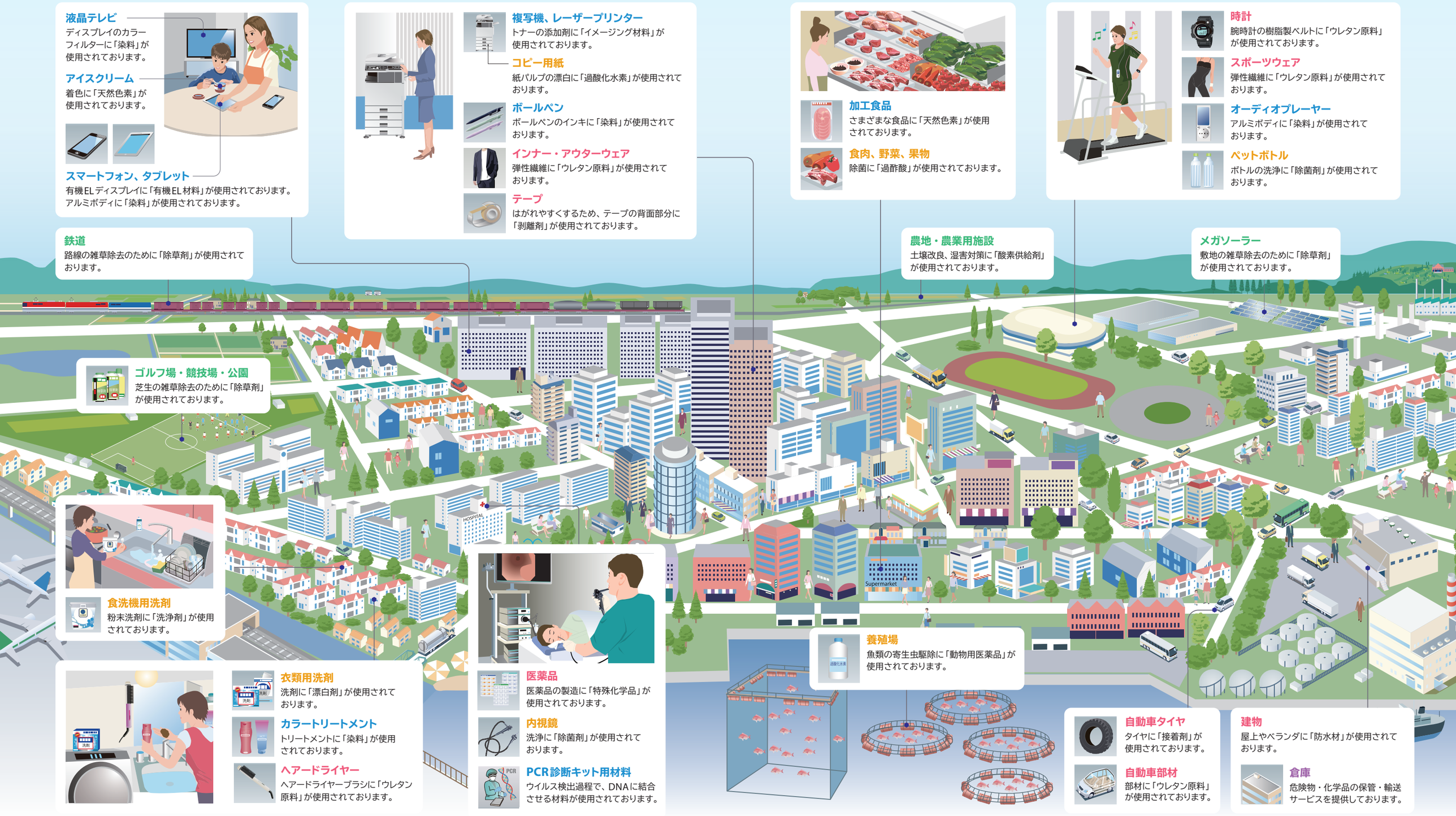
日本　6拠点
- 本社
- 大阪支店
- 郡山工場
- 横浜工場
- 南陽工場・分工場
- 筑波研究所



あなたの周りの保土谷化学グループ

皆様の身近な生活シーンで、保土谷化学グループの技術を活かして製造した材料が、多くの製品に使用されております。
何気なく目にしている、あなたの周りの製品のいくつかをご紹介いたします。

■ 機能性色素セグメント ■ 機能性樹脂セグメント ■ 基礎化学品セグメント ■ アグロサイエンスセグメント ■ 物流関連セグメント



液晶テレビ
ディスプレイのカラーフィルターに「染料」が使用されております。

アイスクリーム
着色に「天然色素」が使用されております。

スマートフォン、タブレット
有機ELディスプレイに「有機EL材料」が使用されております。
アルミボディに「染料」が使用されております。

複写機、レーザープリンター
トナーの添加剤に「イメージング材料」が使用されております。

コピー用紙
紙パルプの漂白に「過酸化水素」が使用されております。

ボールペン
ボールペンのインキに「染料」が使用されております。

インナー・アウターウェア
弾性繊維に「ウレタン原料」が使用されております。

テープ
はがれやすくするため、テープの背面部分に「剥離剤」が使用されております。

加工食品
さまざまな食品に「天然色素」が使用されております。

食肉、野菜、果物
除菌に「過酢酸」が使用されております。

時計
腕時計の樹脂製ベルトに「ウレタン原料」が使用されております。

スポーツウェア
弾性繊維に「ウレタン原料」が使用されております。

オーディオプレーヤー
アルミボディに「染料」が使用されております。

ペットボトル
ボトルの洗浄に「除菌剤」が使用されております。

鉄道
路線の雑草除去のために「除草剤」が使用されております。

農地・農業用施設
土壌改良、湿害対策に「酸素供給剤」が使用されております。

メガソーラー
敷地の雑草除去のために「除草剤」が使用されております。

ゴルフ場・競技場・公園
芝生の雑草除去のために「除草剤」が使用されております。

食洗機用洗剤
粉末洗剤に「洗浄剤」が使用されております。

衣類用洗剤
洗剤に「漂白剤」が使用されております。

カラートリートメント
トリートメントに「染料」が使用されております。

ヘアードライヤー
ヘアードライヤーブラシに「ウレタン原料」が使用されております。

医薬品
医薬品の製造に「特殊化学品」が使用されております。

内視鏡
洗浄に「除菌剤」が使用されております。

PCR診断キット用材料
ウイルス検出過程で、DNAに結合させる材料が使用されております。

養殖場
魚類の寄生虫駆除に「動物用医薬品」が使用されております。

自動車タイヤ
タイヤに「接着剤」が使用されております。

自動車部材
部材に「ウレタン原料」が使用されております。

建物
屋上やベランダに「防水材」が使用されております。

倉庫
危険物・化学品の保管・輸送サービスを提供しております。

保土谷化学グループのイノベーションの歴史

1916年、保土谷化学は日本で初めて電解法苛性ソーダを製造する企業として誕生しました。創業110年の長い歴史により培われた技術を基に、時代のニーズに応え、絶えざる革新を通じて、染料から農薬、医薬中間体、ウレタン樹脂材料、有機EL材料といった、暮らしと社会を支えるさまざまな製品を生み出し続けてまいりました。

保土谷化学グループは、次の100年も、価値ある製品・サービスの創出を通じて、持続可能な社会の発展に貢献する企業として、「SPEED 25/30」を始動し、その歩みを続けてまいります。

1915年
現在の神奈川県横浜市保土ケ谷区に「程谷曹達工場」設立

1916年
東洋曹達株式会社（現郡山工場）設立

1939年
鶴見工場（現横浜工場）設立
「保土谷化学工業株式会社」に社名変更

1967年
ニューヨーク駐在事務所開設（1986年現地法人化）

1971年
南陽工場設立

1978年
保土谷建材工業株式会社設立（2017年保土谷建材株式会社へ商号変更）

1991年
筑波研究所設立

1993年
保土谷コントラクトラボ株式会社設立

1994年
保土谷アグロス株式会社設立（2011年保土谷アグロテック株式会社へ商号変更）

1997年
保土谷ロジスティックス株式会社設立
上海駐在事務所開設（2014年現地法人化）

2006年
日本ポリウレタン株式会社の一部株式を譲渡（2012年全株式譲渡）

2008年
韓国駐在事務所開設（2011年現地法人化）
保土谷UPL株式会社設立

2010年
デュッセルドルフ駐在事務所開設（2018年現地法人化）
台北駐在事務所開設
SFC CO., LTD.（韓国）の株式を取得

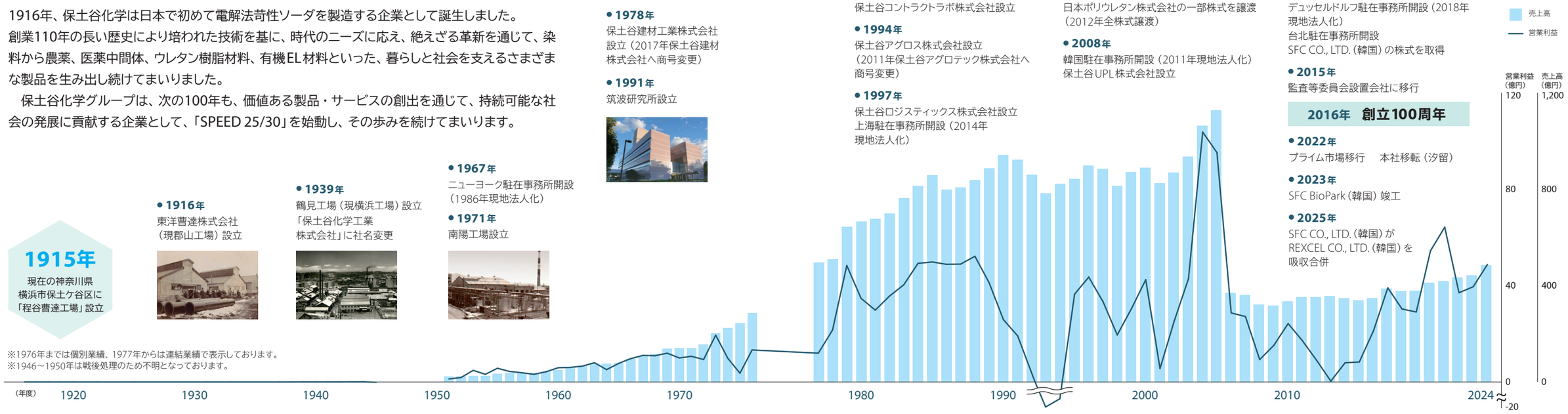
2015年
監査等委員会設置会社に移行

2016年　創立100周年

2022年
プライム市場移行　本社移転（汐留）

2023年
SFC BioPark（韓国）竣工

2025年
SFC CO., LTD.（韓国）がREXCEL CO., LTD.（韓国）を吸収合併



※1976年までは個別業績、1977年からは連結業績で表示しております。
※1946～1950年は戦後処理のため不明となっております。

開発の歩み

1920 / 1930 / 1940 / 1950 / 1960 / 1970 / 1980 / 1990 / 2000 / 2010 / 2020

1915年
電解法苛性ソーダの製造を開始（日本初）

1926年
ホスゲンの製造を開始

1927年
染料の製造を開始

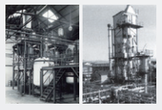
1950年
農薬の製造を開始

1963年
ウレタン原料（PTG）の製造を開始

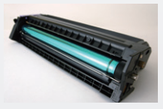
1966年
過酸化水素の製造を開始

1967年
日本初のウレタン防水材の製造を開始

1978年
トナー用電荷制御剤（CCA）の製造を開始



1984年
有機光導電体材料（CTM）の製造を開始



2001年
有機EL材料・正孔輸送材（HTM）の製造を開始

2004年
有機EL材料・電子輸送材（ETM）を開発

2017年
過酢酸製剤「オキシアタック」（食品向け除菌剤）の製造を開始
ウレタン防水材「凄極膜」の製造を開始

2020年
PCR診断キット用材料の量産を開始

2021年
メタルフリーアルミ着色用染料の製造開始

2024年
PTG-SOFTENAの製造開始

社会のニーズ

化学産業の輸入依存からの脱却
創業者 磯村 音介

1914年 第一次世界大戦
1923年 関東大震災

社会の工業化・近代化とともに総合化学メーカーへ

1939年 第二次世界大戦

戦後復興を後押しするさまざまな製品開発

1950年代 戦後復興
1960年代 高度経済成長
1973年 オイルショック

エレクトロニクス時代到来に向けて電子素材関連へと事業分野を拡大

1985年 プラザ合意
1991年 バブル崩壊

環境負荷の低い新素材・新製品で環境調和型社会を創造

2008年 リーマンショック
2011年 東日本大震災
2020年 新型コロナウイルス感染症流行

技術のルーツと変遷

創業時製品（1916年～）

- 苛性ソーダ
- 塩素
- 水素

塩の電気分解

原料・中間体	主要製品グループ
各種芳香族 有機化合物	有機・光デバイス材料
天然素材	有機・光デバイス材料 / 各種染料
有機化合物	ウレタン原料
ホスゲン	医薬・農薬原料 工業薬品原料 / ウレタン系 防水材
各種芳香族 有機化合物	各種除草剤
水素	過酸化水素および誘導品

～1980年	～2000年	現在
コピー機用材料		有機EL材料 / バイオ材料
アルミ着色用染料	文具用染料	カラーフィルター用染料 / カラートリートメント用染料
弾性繊維用原料		
剥離剤原料		医薬中間体
建築材料		
除草剤	自社原体＋導入原体	農業資材
過酸化水素	過炭酸ナトリウム	過酢酸

保土谷化学グループの価値創造プロセス

保土谷化学グループは、内外の環境変化、ステークホルダーの皆様からの要請を踏まえ、私たちが目指す企業像を、「スペシャリティ製品を軸としたオリジナリティにあふれるポートフォリオと環境に優しいモノづくりで、持続可能な社会の実現に貢献する企業」としております。これからも、「化学で夢のお手伝い」をキャッチフレーズにそれぞれの事業活動から創出された価値を通じて、社会課題を解決し、サステナブルな社会の実現に貢献してまいります。

PURPOSE～経営理念～

私たちは、化学技術の絶えざる革新を通じ、
お客様が期待し満足する高品質の製品・サービスを世界に提供し、
環境調和型の生活文化の創造に貢献します。

VISION ～目指す企業像～

スペシャリティ製品を軸とした
オリジナリティにあふれるポートフォリオと
環境に優しいモノづくりで、持続可能な
社会の実現に貢献する企業

インプット（2024年度）

地球環境

社会

外部環境認識

人（会社と組織）

ガバナンス

リスクと機会→P.17

財務資本

価値創造を実現する財務基盤・投資

- 純資産 58,530百万円
- 1株当たり純資産 3,057.98円※
- 自己資本 48,601百万円
- 有利子負債 8,501百万円

人的資本

自ら学び考え行動できる人材

- 連結従業員数 942人
- 海外従業員比率 35.2%
- 人件費（販管費） 2,759百万円
- 1人当たりの教育投資額（個別） 54千円
- 1人当たりの平均研修時間 81.1時間
- 社内研修を受けた従業員数 600人

知的資本

グローバルな競争力を支える技術・協創基盤

- 産学共同（新規素材開発）実施
- 研究開発費 5,638百万円
- 売上高研究開発費率 11.6%
- 知的財産保護に関するノウハウ

製造資本

グローバルに展開する生産拠点

- グローバルな生産拠点体制
  生産拠点数（国内3拠点、国外1拠点）
- 設備投資額 5,444百万円
- 売上高設備投資比率 11.2%
- 環境配慮原材料の使用

社会・関係資本

さまざまなステークホルダーとの共創を通じた長期的な顧客基盤、信頼関係

- 保土谷化学とパートナーが同レベルの調達方針
- 連結子会社（国内6社、海外6社）
- 安心・安全な製品の開発、製造体制
- 創業110年の歴史で積み上げた信頼とHCCブランド

自然資本

資源の効率活用

- エネルギー消費量（原油換算） 22,623kl
- 水使用量 9,894千t

強み

長年にわたり積み上げてきたチカラ

揺るぎない3つの基盤技術力

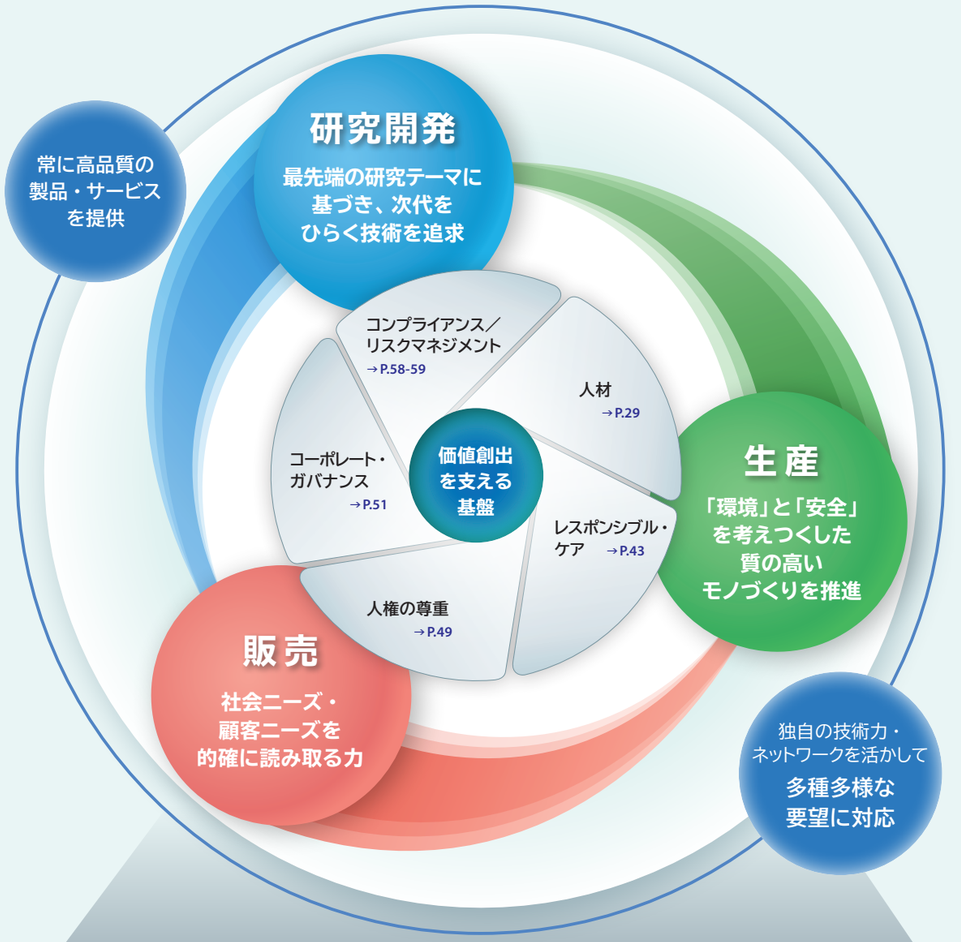
- 高純度化技術力
- 機能素材開発力
- 機能素材評価力

進化し続ける3つの企業力

- 価値創造力
- 研究開発力
- 生産技術力

強み→P.16

ビジネスモデル

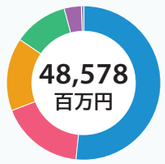


中期経営計画 SPEED 25/30

事業強化・新製品創出・生産性向上・
経営基盤強化・戦略投資の実行・
サステナビリティの推進・DXの推進 →P.22

アウトプット（2024年度）

セグメント別売上高



機能性色素
25,141百万円
51.8%

・・・

機能性樹脂
8,450百万円
17.4%

・・・

基礎化学品
7,515百万円
15.4%

・・・

アグロサイエンス
5,510百万円
11.3%

・・・

物流関連
1,780百万円
3.7%

事業概要→P.36

アウトカム

経済価値

企業価値向上に向けた資本政策

- DOE 1.8%
- EBITDA 7,880百万円

人的価値

働きやすい環境を創出し、多様な人材の活躍

- 従業員エンゲージメント向上
- 海外売上比率 53.4%
- 女性管理職比率 12.1%
- 「健康経営優良法人」5年連続取得
- 育児休業取得率 男 81.8%　女 100%
- 有給休暇取得率 72%
- コンプライアンス検定取得率（国内） 99.6%（管理職）

知的価値

新たなイノベーションを創出し、企業価値を向上

- 売上高に対する新製品比率向上

製造価値

事業拡大のための競争優位性の向上

- アルミ着色用染料製造設備の増強
- 環境配慮製品の拡大

社会価値

事業活動を通じた地域環境への配慮

- グローバルレベルの調達方針の遵守
- 法令違反ゼロ、休業災害ゼロ
- 社会貢献活動 9百万円

環境価値

地球環境問題への配慮

- エネルギー原単位 0.4657kl/売上高百万円
- CO_2排出量 31,661t-CO_2（0.6518t-CO_2/売上高百万円）
- 水排出量 9,652千t
- 産業廃棄物発生量 3,076t

マテリアリティ→P.19

インパクト

農業・食品
安心・安全で豊かな食生活の実現への貢献

環境・エネルギー
環境負荷の低減に貢献

電子・情報
豊かなスマートライフの実現に貢献

モビリティ
安全な物流機能の提供

ライフサイエンス
人々の健康維持と安全・安心な医療サービスの提供に貢献

※ 当社は2025年4月1日付で1株につき2株の割合で株式分割を行っています。2025年4月1日以前の1株当たり純資産につきましては、株式分割調整後の数値を表示しています。

価値創造プロセスの解説

ビジネスモデル

保土谷化学グループでは、多様化する社会のニーズをいち早く捉え、さまざまなお客様の異なるニーズに即応するために、研究開発、生産、販売部門が連携した三位一体のビジネスモデルを構築しております。社内ネットワークを活用し、研究開発、生産、販売部門の3部門が、効率的かつ場所を選ばず迅速に情報を共有し、製品の開発につなげております。また、生産販売会議を月次で行うことで効率化を図るとともに、営業部門が得たお客様の要望やニーズを事業部と生産拠点で共有し、製品の改良に必要な体制や、新たな研究開発テーマの選定を迅速に行える体制としております。

研究開発

関連する資本：人的資本　知的資本　社会・関係資本　財務資本

特徴・大切にしていること

- 快適で豊かな暮らしに貢献する新素材を開発する技術系人材
- 最先端の研究テーマを選定する目利き力
- 要素技術を確実に保護する知的財産活動
- 大学・研究機関との良好な関係

深化のための取り組み課題

- 研修制度の充実とエンゲージメントの向上による高度な技術系人材の確保と育成
- 国内外の研究開発拠点の連携強化による商品開発のスピードアップ
- 産学共同研究の推進による新規素材開発力の強化
- 研究開発費の積極的な投入

販 売

関連する資本：人的資本　財務資本　知的資本　社会・関係資本

特徴・大切にしていること

- 創業110年の事業で培ったグローバルベースでの顧客基盤と信頼関係
- 社会ニーズ・顧客ニーズを的確に読み取り、実現する情熱と企画力
- スペシャリティ製品を軸としたオリジナリティにあふれる製品ラインナップの構築による、ブランド認知度の向上

深化のための取り組み課題

- 顧客満足の向上に向けたお客様とのコミュニケーション強化
- 営業力を強化するための事業部体制の見直し（営業支援組織のさらなる強化による営業への特化）
- 内外連携の強化による、販売チャネルの多様化、海外販売の増加

生 産

関連する資本：人的資本　製造資本　社会・関係資本　財務資本　自然資本

特徴・大切にしていること

- 温室効果ガス排出量、水排出量、産業廃棄物発生量の削減
- 製造拠点の最適複数拠点化
- BCP対策の強化

深化のための取り組み課題

- 温室効果ガス排出量、産業廃棄物発生量の削減
- 製造拠点の最適化
- BCP対策の強化
- DXによる効率的な生産
- プロセス開発力の向上による新製品上市スピードの向上
- 教育の充実とエンゲージメントの向上による高度な技術系人材の確保と育成

強 み

揺るぎない3つの基礎技術力

1. 高純度化技術力

高度な精製技術を駆使し、一段上の高純度化を実現します。

求められるのは、進化し続ける機能と新たな領域へ適応できる高純度素材。保土谷化学グループの高度な精製技術が、最先端の厳しい要求を解決し、お客様の期待にお応えします。

2. 機能素材開発力

快適で豊かな暮らしにつながる、新機能を持った素材を開発します。

目指すのは、安心・安全・快適で豊かな暮らし、夢の実現です。保土谷化学グループは、あらゆる場面を想定した新たな分野に挑戦し、さまざまな機能を備えた新素材を提案します。

3. 機能素材評価力

知見・経験・熟練。その評価技術が未来型素材を支えます。

高度な評価技術で仕上げた保土谷化学グループの製品に対する答えは、お客様の信頼に表れております。評価結果が新たな設計へ、そして最先端の一歩先を行く素材へ生まれ変わります。

進化し続ける3つの企業力

1. 価値創造力

お客様のあらゆる課題を解決に導く、新たな価値を創造します。

社会的ニーズ・顧客ニーズを的確に読み取る力。ニーズに応えようとする情熱と発想力。裏付けとなる技術力とノウハウ。これらが付加価値の高い製品を生み出す源泉です。

2. 研究開発力

最先端の研究テーマに基づき、次代をひらく技術を追求します。

長い歴史が育んだ高い研究スキルと、充実した研究設備。これらを駆使し、最先端の研究テーマに取り組むことで、新たな価値をカタチにしてまいります。

3. 生産技術力

「環境」と「安全」を考えつくした、質の高いモノづくりを推進します。

高い品質、安定供給、コスト競争力などが高く評価される保土谷化学グループ。「環境」と「安全」を考えつくした高度な基準に基づく生産体制を構築しております。

アウトカム／インパクト

保土谷化学グループは、化学メーカーとして、高いスペシャリティとオリジナリティを活かし、「環境調和型の生活文化の創造」に貢献できる企業を目指しております。次の100年に向けて成長していくには、保土谷化学グループのキャッチフレーズである「化学で夢のお手伝い」をさまざまな形で実現しなければならないと考えております。世界的な社会課題にスピーディーに対応し、全てのステークホルダーの皆様の期待にお応えすることで、企業価値を向上し、持続的な成長を目指します。